現地で活動した国際要員の声
難民×看護師

看護師　木村　　仁美

最新の派遣先：バングラデシュ（姉妹社）

プロフィール紹介

静岡県生まれ。大森赤十字病院勤務。

派遣歴：バングラデシュ（2019～2020年）

国際要員を目指したきっかけ

日本赤十字広島看護大学に入学し、赤十字の活動や歴史を学んだことが世界の看護に目を向けるきっかけになりました。在学中、米国の大学および付属病院での研修に参加し、現地の看護学生と話す中で、"看護の世界観"が広がり、海外での医療活動に興味を持ち始める転機となりました。

国際要員として登録されるまでの道のり

総合病院で5年間務めた後、ワーキングホリデーで渡豪、帰国後は、途上国でのボランティア活動や外国人が多く訪れるテーマパークの救護室に勤務し、異文化や環境に適応することを意識してきました。

赤十字病院に就職後は、日赤が開催する様々な研修や勉強会に参加しましたが、特に緊急救援を疑似体験できる国際活動体験ツアーやフィリピンのスタディツアーに参加したことで、要員の役割や業務への理解が深まりました。同僚や上司の応援もあり、看護師長と相談しながら、登録に必要な研修を短期間で受けることができました。

現地での活動のやりがいは？

2019年10月から半年間、バングラデシュの難民キャンプで避難民の方へ保健教育を実施する活動に従事しました。バングラデシュ赤新月社※1スタッフおよびボランティアのみなさんと、より良い活動を目指し試行錯誤する中で、彼らの情熱や仕事への意欲、お互いへの理解や共感などに心揺さぶられる瞬間がたくさんありました。

また、現地では、バングラデシュ赤新月社をはじめ、各国赤十字・赤新月社、連盟※2、ICRC、国連、NGO等、世界中の多くの組織や人々が関わっており、人道支援の奥深さを学んだと同時に、互いに協力して初めて支援が成り立つということを肌で感じ、そこに関わる一員としてのやりがいも感じました。

今後の目標

地域の中に入り人々に寄り添う保健事業にやりがいを感じたため、知識・技術を向上させ、再び挑戦したいです。また、昨今は災害も多いため、国内外問わず救援活動ができるよう、国内災害で救護活動に参加したり、海外の緊急救援で派遣に出ることを今後の目標としています。

最後にひとこと

私たち要員は、寄付者の皆様からの支援を基に、現地での継続的な活動をおこなっています。限られた資源の中で、いかにより良い支援ができるかを考え、現地赤十字・赤新月社と協力しながら事業を展開しています。私たちだけでなく、現地でも寄付をしてくださった日本の皆様に大変感謝をしている声があがっています。これからも、世界中で苦しんでいる人々の"いのち"をサポートできるよう、赤十字活動へのご理解・ご協力をお願いいたします。

※1 十字マークはキリスト教を連想させることから、イスラム教国の多くは、赤新月マークを標章とし、「赤新月社」の名称で活動しています。
ただし、赤十字・赤新月マーク自体に宗教的な意味合いは一切ありません。

※2 国際赤十字・赤新月社連盟の略称